

[コード: 72202**]

水溶性防錆剤/水切り・(変色)防錆剤

K P C — 2003

Rust & Tarnish-Prevention for Metals and Plating : K P C - 2003

“K P C - 2003”は、鉄鋼だけでなく、銅及び銅合金、亜鉛、アルミニウム、鉛及び鉛合金等の非鉄金属、その他殆どの金属に対して有効な水溶性防錆剤です。

“K P C - 2003”は撥水性に優れていますので素材の防錆だけでなく、めっき後の水切り/一次防錆・変色防錆剤としての作用も非常に優れ、又乾燥後においても防錆効果を持続し、その防錆力は一般の軽質潤滑防錆油に匹敵する程の耐湿潤性を有しております。

“K P C - 2003”処理によって形成された皮膜は $0.1\mu\text{m}$ 以下の薄膜であり、べとつきや他のモノへの転移接触付着するような不具合は起こしません。

又、K P C - 2003は洗浄/乾燥工程の簡略化、水洗後の種々トラブルの改善に威力を発揮致します。

1. “K P C - 2003”の特徴

- (1) 水溶性防錆剤で、軽質防錆剤に匹敵する耐湿潤性(発錆抑制等)を有しています。
- (2) 銅及び真鍮等の銅合金、電気ニッケル及び無電解ニッケル、クロム、黒ニッケル及び亜鉛等のめっき及び素材に対しての、防錆・変色防止作用が非常に優れています。
- (3) 形成皮膜は、透明で非常に薄く($0.1\mu\text{m}$ 程度)、下地素材やめっき等の表面の光沢・外観を損なうことはありません。
- (4) 形成皮膜は撥水性・耐湿潤性に優れており、水分や腐食性ガスを誘引しての錆、酸化皮膜や硫化皮膜による変色を防止致します。又、水洗水による“水垢”や“シミ”等の発生を防止します。
- (5) 銅及び銅合金に対する変色防止効果はB T A(ベンゾトリアゾール)より優れています。
- (6) 乾燥後の皮膜上に塗装も可能であり、密着性も問題ありません。

2. 適用範囲

- (1) 銅及び銅合金、ニッケル及びクロムめっき、無電解めっき等の最終仕上げ品の変色防止-防錆、或いはめっき終了後の水切り/脱水-乾燥工程の簡略化のためとして。
- (2) 銅・真鍮めっき後に塗装やバフ研磨する場合(前)の一時的変色防止-防錆剤として。
- (3) 鉄鋼製品の中間工程や保管工程の、防錆として(一次的ストックの)。
- (4) 鉄鋼加工品: 研磨、切削&ブラスト、プレス・打ち抜き、印刷や合わせ鋼板、他種々の加工品に対する防錆及び一時防錆やストック剤、洗浄(脱脂、脱錆など)後の水切り剤として。

3. 使用方法

- (1) 浸漬による、めっきの「防錆・変色防止剤」及び「水切り剤」としての使用

《濃度及び処理条件》

「K P C - 2003»: 3~5%容量の水溶液に、20~30℃で1~3分間浸漬した後、水洗又は湯洗を行い乾燥します。

株式会社 金属化工技術研究所

〒131-0043. 墨田区立花 4-28-22. TEL03-3617-4600. FAX03-3617-4688

東京営業所: TEL03-3617-4602 大坂営業所: TEL06-6783-3449 名古屋営業所: TEL052-902-3810

《処理工程》

各種めっき⇒回収⇒水洗（2～3回）⇒**KPC-2003 処理**⇒水洗⇒水洗⇒乾燥

注1) 処理する品物の表面は出来る限り清浄で汚れや異物を除去してKPC処理して下さい。

注2) “水切りのみが主目的”の場合は10～60秒間程度の浸漬でも十分効果はあります。

注3) “KPC-2003”処理後の水洗、又は湯洗は出来る限りイオン交換水をお薦めします。

注4) めっき液等が持ち込まれますと、変色防止作用・防錆効果が低下しますので、

“KPC-2003”処理前の水洗は特によく行なって、処理液に品物を入れて下さい。

注5) “KPC-2003”の生成皮膜はアルカリ電解脱脂により除去出来ます。

(2) 水溶性防錆剤としての使用

“KPC-2003”を水溶性防錆剤として使用する場合はやや薄めの濃度の水溶液に浸漬し
(常温～40℃、10秒～3分間)、そのまま乾燥するか、軽く水洗して乾燥します。

(3) その他の使用方法

浸漬法だけでなく、スプレー、刷毛塗り、布ぶき等いろいろな方法で使用出来ます。

4. “KPC-2003”の濃度管理

“KPC-2003溶液”は、水切り効果（撥水効果）が弱まった場合は、適宜補給を行なって
下さい。連続使用の場合は「一定量の汲みだし⇒補給」の方法が安定します。

又、処理液が濁ったり、pH等が変化し撥水効果が無くなった場合には更新して下さい。

5. 取り扱い上の注意

“KPC-2003”は、事前に「MSDS」をよく読んでお取り扱い下さい。

(注) “KPC-2003”は劇物には属しませんが、濃厚溶液は直接皮膚に触れないように取扱って下
さい。又、作業後は手をよく洗って下さい。目に入った場合には速やかに水又はぬるま湯で
よく洗って下さい。

【性状】

①外観・・・・・・・・褐色透明液。

②比重・・・・・・・・1.0±0.02

③pH・・・・・・・・1%水溶液：8.5±0.5（弱アルカリ性）

④主成分・・・・・・・・BTA誘導体を主とする有機複合物。

⑤皮膜状態・・・・・・・・3%水溶液に浸漬→乾燥した場合、結晶物を残さず。

⑥急性毒物・・・・・・・・LD₅₀：13.8g/Kg

⑦排水基準・・・・・・・・COD：330ppm（1%水溶液）

BOD：600ppm（1%水溶液）

株式会社 金属化工技術研究所

〒131-0043.墨田区立花 4-28-22. TEL03-3617-4600.FAX03-3617-4688

東京営業所：TEL03-3617-4602 大坂営業所：TEL06-6783-3449 名古屋営業所：TEL052-902-3810